

親子で納得 ニュース・経済学



経済ジャーナリスト・内田裕子

4月からこのコラムで経済の話をお伝えしてきましたが、今回は最終回となりました。経済と関わりが深い話と受け止められがちです。確かに多くの大学には経済学部があり、経済を専門に勉強します。人類のために役立つことをした人に贈られるノーベル賞には、経済学賞もあります。専門的な世界だと思ってしまうかもしれません。

でも、わたしは経済を学問の観点だけで考えるとまちがえてしまうと感じています。なぜならば経済は「人間の生活そのもの」だからです。人は毎日のように新しいものを生み出しています。さらに、世界中では情報が飛びかっています。人は新しいものや情報に影響を受けながら、日々、経済活動をしています。

「経済は歴史と常識で考えよう」

理科や数学は化学式や方程式があって、何度やっても同じ答えを導くことができます。でも、経済は反対です。経済の変化には法則がありません。例えば、去年の今ごろの夜空と、今日の夜空の星の配置は同じですが、経済活動にはまったく同じ日というものが存在しません。それは経済とは、無数の人たちの行動や感情の集まりだからです。その瞬間に経済活動に参加している人が多く、希望や恐怖心などの感情に左右されながら、経済はふくらんだり、しぼんだりしているのです。人の感情は数値化できませんし、変化し続けていますから、正確な予測などだれにもできません。だからおもしろいのです。

経済を正しく知るためにはデータを見ているだけではダメです。経済活動の現場にいる人々の活動を見たり聞いたりすることが、重要なのです。

最後に、わたしが経済ジャーナリストとして、取材活動をしていくときに、ことあることに立ち戻る言葉をみなさんに送りたいと思います。

「経済は歴史と常識で考えよう」。高金利の金融商品や、難しい経済論、自には見えない「二酸化炭素の取引」など、「荷

かおかしい」という人としての直感こそ、経済をみていく上では重要な要素だと考えます。みなさんも、自分の感覚をとぎすませて、自分の目で見たこと、耳で聞いたこと、頭で考えて納得したことを軸に持って、経済活動に参加してください。そして、経済の本質を探りだしてかっこいい人生を過ごしてほしいと思います。(終わり)



ドバイの経済発展の様子をヘリコプターで上空から伝える内田さん(内田さん提供)

プロフィール 玉川大学芸術学部演劇専攻卒業後、大和証券に入社。2000年に財部誠一事務所に移籍。製造現場の取材や経営者のインタビューなどの仕事をこなす。テレビ出演、執筆、講演活動を通じて経済の情報を伝えている。